

令和6年度大阪府景観審議会

第2回公共事業アドバイス部会 会議要旨

開催日時：令和7年2月10日（月）10:00～11:15

出席委員：若本部長、田中専門委員、林専門委員

【大阪府営堺宮山台4丁第3期住宅民活プロジェクトについて】

○敷地のある地域について自治体が景観計画で定める内容を、十分意識してほしい。

また、他の民活プロジェクト含め、大阪府として仕様等の変えてはいけないところと、民間からの提案を上手に引き出す部分をしっかり認識し、事業を進めると非常に良いものができる。

○第1・2期との連続性において、第1・2期の建物は非常に大きく、高さが揃っているため圧迫感がある。なるべく空を広く見せようとしているのか、本計画では横のラインを意識した建物にしている。また、既存住棟と比べ、縦格子の手すり等で印象を変えているため、第1・2期と繋がりが出てくるのか心配である。防災公園等に現れているように、泉北の特徴的な部分を今回の建替えで壊さないようにされているところは評価できる。

→形態・素材・色調の大きく三つの要素がある。形態については、既存の高層棟と本事業の中層棟とでボリュームの違いはあるが、勾配屋根を用いて連続性出している。

次に、素材について、外壁は同様に吹付素材を採用し、既存住棟と変化がない。

色調については、既存住棟は2分節にグレーを追加し、分節化することで優しい柔らかい空間が生まれ、ヒューマンな空間に近づけることができる。イエロー系で既存住棟と連続させながら、下層はグレーで少し締め、様相が異なるが、同系色で整えることで一体感が生まれる。

また、本計画で広い空間を作り、集会所等も団地一体で活用することで良い団地になることを期待している。

○色彩の3段階について、ベース色を入れることで高さの印象がとっても緩和されて良い。

○周囲との緩衝剤として広場を多く設けているところや、擁壁が設置されないよう分節されているところがポイントである。

エントランス等に面している広場が団地の顔になるため、多く設けられる広場がどのように有機的に使い分けられるか、また集会所も含めて一体的なコミュニティのスペースとなるのか気になった。

→外部道路からキッチンカー等が直接進入できるスペースを用意している。このスパー

スと右側のだんだん広場の高さが一体になっており、ここを中心として催しができる。中央は子供も活動的な利用できるスペースと考えている。集会所は当初計画を生かし、だんだん広場の左側の中央に集会所を配置した。

また、エントランス広場・北側の公道・集会所の南側の道路を同じ勾配にすることで、基本的には外構には一切擁壁を作らず優しい空間とする考えである。

○エントランスから広場を望むパースを見て、南西側のため池側の既存の樹木を残すことで樹木が山のような背景になり、いかにも里山風景のような居心地のいい広場が作れている。堺市の田園景観区域に基づいた設計で好印象に思う。

敷地に余裕があるため、植栽計画において核となるような昔ながらの里山の雰囲気を各所に残すことができれば良い。

○ため池側の緑道を通り、南側に小学校への登校風景となっていれば、田園的な山の団地の中で暮らすという豊かさを感じる。

→緑道は鬱蒼としており、夜間に女性や子供が歩行するには怖いと感じる状況であるため、既存の法面に残っている緑は保存して活用する考え方であるが、それ以外はフラットな形の空間にまとめている。

○生態系等、他の生物についても考慮の上で散歩の広場の境界についてご検討いただきたい。